

地方公務員の台湾研修旅行報告

台湾政府は、2011年より地方交流促進及び青年交流促進のため、日本の若手地方公務員、地方議員等を1週間台湾に招聘する研修旅行を実施しています。今年は10月19日から25日の日程で、台湾政府機関訪問、地方議員との懇談、大学生との交流、烏山頭ダム等の古蹟探訪等中身の濃いプログラムを体験しました。ここでは、今回研修に参加した地方公務員7名の報告書から抜粋した各人の感想をご紹介します。

茨城県商工労働部観光物産課 国際観光推進室 主事 矢野 麻美

今回の訪問では、台北・台南の夜市、国立故宮博物院、九份の街並み、国立台湾博物館の見学などを行った。また立法院・総統府の訪問や台湾の政党である国民党・民主進歩党の訪問では活発な意見交換が行われ、台湾と日本の共通点や違いなど様々に感じる事が出来た。台湾の議員さんや学生との交流は日頃の業務の中ではあまりできないことなので、そういった方とお話が出来たこと、また交流が持てたことは非常に有意義であり、また貴重な体験であったと感じる。

現在、茨城県職員として外国人観光客の誘客を推進する業務に携わっており、メインターゲットである台湾の人々の交流や生活を生で体験することで、日本にいただけではわかり得なかったことを学ぶことができ、今後の業務を進めるうえで非常に有意義な体験ができた。

いま台湾からの訪日客は急激に増加しているところであり、その流れを汲んで多くの自治体が台湾からの誘客に力を入れて取り組んでいるところであるが、単発的な取り組みではなく、何度でも日本に来てもらいたいと思ってもらえるような、日本のPRを継続していくことができれば素晴らしいと思う。また反対に、日本から台湾を訪れる観光客も同じように継続的に増えていき、相互に

交流活発化が図れたら良い。

日本が東日本大震災という未曾有の大災害に襲われたとき、台湾は多額の寄付を日本にしてくれた。そのお陰もあり、日本は震災から早く立ち直ることもできた。その恩を忘れることなく、少しでも台湾に貢献できるようになっていけたらと思う。



2014 日本青年台湾研修旅行団集合写真～松山空港にて

群馬県桐生市観光交流課 観光物産係 係長 深澤 明男

今回は、『アウトバウンド』という目的により台湾政府が招聘していただいたものですが、日本側からいう『インバウンド』においても、治安や習慣（文化、食）などの地域情勢をよく理解したうえで誘客宣伝事業を展開していくことが重要であ

ることを実感しました。

台湾に到着してから、外交部や視察先の熱烈な歓迎を受け、日本が統治していた時代があり本土との政治的な課題もあるなか、全体的に親日的で、現地の一般市民も日本人への愛着と尊敬の念を強く感じたことが印象的でした。現地で自らの目で見たと、近代的な都市空間と歴史ある文化、また、ノスタルジックな景観をあわせ持つ台湾は、刺激的で、私にとって初めての訪台となりましたが、一度で大好きになりました。

台湾と日本の良好な関係を継続するためにも、日本から台湾に出向く機会を創造し教育や産業、観光といったグローバルな視点で交流促進を図っていくことが肝要であると考えます。桐生市では、今年から桐生市立商業高校が台湾への研修を行うようになり、産業政策部門では台湾企業との産業連携を行うため台湾で開催されるテキスタイルフェアなどに参加し相互交流が始まっています。国主導で国策として行う分野もありますが、より身近な地方自治体間でも可能であると思います。日本と台湾がWIN-WINの関係を築くためにも、桐生市としても、相互交流をよりいっそう深められるよう、地方公務員として、一職員として取り組んでいきたいと思っています。

私は観光部門の職員として、国内や海外からの



外交部との交流会

観光誘客を図り、観光客増加による地域経済の活性化が職務ですが、その職責をより効果的に行うためにも、今回の研修で実体験した台湾の魅力を多くの日本人に伝えていきたいと思っています。

埼玉県産業労働部観光課
企画・国際観光担当 持田 泰人

観光の視点から見た台湾は、外国人観光客の受け入れ体制について学ぶべきことが多数ありました。

何よりも感心させられたのは、現地の方々の外国人観光客への歓迎の気持ちが大きいと感じたことです。昼間に道を歩いていると、日本語はほとんど話せないにもかかわらず、「日本人ですか？」(おそらくそのようなニュアンスだったと思います。)と声をかけていただき、「そうです。」と答えると。片言ではあったものの、日本語で「歓迎します。」とおっしゃっていただけたことは非常に印象に残っています。

「旅行者が、その国や場所のリピーターになる時とはどのような時か」という話を、以前埼玉県で開催した「外国人観光客のおもてなしセミナー」の講師の方からお聞きしたことがあります。それは、旅行先の人々とのよい思い出や、歓迎の気持ちを受けた場合とのことです。その様な歓迎の気持ちを受けた旅行者はリピーターとしてその国や場所に訪れる回数が増えるといえます。まさに、今回の出来事は、台湾に対して非常に良い印象を持った出来事だったと身を持って感じる事ができました。

今回の招聘事業は「台湾をよりよく理解するため」、台湾現地機関などを表敬訪問し、座談会と研修を通じ、日台間の友情と相互理解を深めることとしており、参加した日本青年団員の方々は、それぞれに好印象を持ち交流が図れたことと思います。今回の研修に際し、関係者の方々には大変お

世話になりました。また、今回の研修を通して出会った方々に感謝申し上げるとともに、この出会いが今後の日台関係のますますの発展につながりますよう期待するとともに、埼玉県職員として、台湾で感じた外国人観光客への「おもてなし」の心を発信していけたらと思います。



士林夜市にて

東京都墨田区産業観光部観光課 主任主事 高塚育洋

今回の研修に参加する前、私自身、台湾についてある程度の知識を持っていると自負していた。しかし、研修終了後、百聞は一見に如かずとは正にこのことだと実感できる大変意義のあるものとなった。私の知る台湾とは、「親日である」、「食事が日本人に合っている」、「経済大国」、「中国との緊張が続いている」というようなものであった。今回の研修では、台湾の主要な政府機関、政党、観光施設の視察等を通じて、直接自分の目で見て、耳で聞くことにより、活きた情報を得ることができ、これまで以上に台湾についての見聞を深めることができた。

最終日の特別講座では、とても貴重な知識を得ることができた。まず、台湾とは、政治や社会、経済の仕組みは日本と同じであると考えていた

が、全く違うことに驚かされた。日本が組織型社会なら台湾は逆に個人型社会で、日本よりも自由に転職が行われ、日本のような組織的な入社式が一般的になく、就職したくなったら働くという枠にはまらない社会の仕組みに驚かされた。

私は、アジア人＝寡黙で勤勉、組織に尽くすという考えだったが、この講座から台湾の人たちのたくましさを学ぶことができた。

観光面で感じたことは、ホテルには、日本語の観光案内パンフレットがあり、観光施設等にも日本語の案内パンフレットがほぼ用意されている等、とても感心させられた。また、駅やホテル、主要観光施設、飲食店等複数箇所において既に無料 Wi-Fi スポットが整備されており、簡単なパスワードを入れるだけで使用でき、とても便利だった。日本でも無料 Wi-Fi スポットの整備が急務になっているが、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、整備を急ぐ必要があると感じた。

今回の研修で得た知識と経験は、今後の職務に役立てていくことはもちろん、台湾の良さを家族や職場、友人等に伝え、小さくとも私自身が、日台の友好の懸け橋になっていきたいと考えている。そして、台湾の方が、墨田区に来たときは、私が台湾で感じたように温かくお出迎えしたい。



烏山頭ダムにて

群馬県沼田市経済部観光交流課
観光推進係 副主査 金丸 智

私は今回の研修で初めて台湾に行かせていただきました。

事前に、若干の予備知識を入れていきましたが、良い意味で期待を裏切られた事があります。それは、人の暖かさです。台湾の方はすごく親日との情報は得ていましたが予想以上でした。

今回の研修で気付いた点が3点あります。1点目は、台湾は開かれた文化だということです。多民族国家であるため違った文化が入ってきても素直に受け入れられる土台が出来ている気がしました。逆に日本は閉鎖社会なので、なかなか外に向けて発信したり、外部からの受入に寛容でない傾向があります。そこが日本人の一番大きな課題では無いでしょうか。2点目は言語の問題です。1点目と内容がかぶる部分もありますが、どうしても、日本人は保守的で新しいことに挑戦するのが苦手な人が多いです。伝えたいという気持ちよりも恥ずかしいという気持ちが出てきてしまいます。これを克服できれば日本の外国人旅行客の受入が大きく変わると思います。3点目はフリーWi-Fi設置場所が大変多かったことです。日本に来られた大多数の外国人の方々がこの3点だと思います。基本的な受入体制を整えればもっと多くの外国人観光客も来てもらえ、交流も深まると思います。お互いの良いところをまねし、または紹介し合いながら発展のもてる交流がはかれれば大変素晴らしいことだと感じました。

私が7日間の中で特に感じた事は、文化や言葉は違えど、乗り越えられない壁は無いと感じました。壁を作っているのは自分たちであって、相手は非常に友好的であるということ。言葉が通じなくても色々な手段を使って何とかコミュニケーションを取る努力や表示方法など工夫を凝らして

いる点など、当たり前のことですが大変感動いたしました。台湾ってホントに素晴らしいところだったよと多くの人に知ってもらうためにも、この研修はこれからは本番だと思います。



台南市の武聖夜市にて

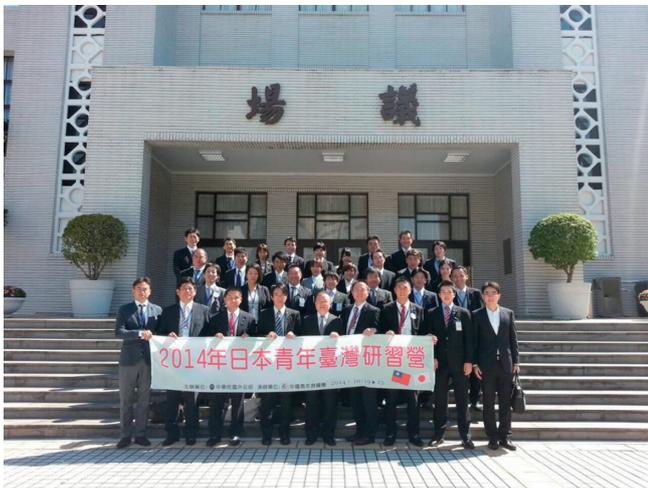
茨城県つくば市総務部人事課
主事 貝澤 紗希

本研修は、平成26年10月19日から25日までの7日間、地方議員、議員秘書、地方公務員及び大学生の計31名が参加して行われた。

特別講座では、台湾インバウンドビジネスに関する講演及び台日比較政治文化論の講演が行われた。台湾人目線で見ると日本旅行の残念なところ、驚くところなど、これまで意識したことのないポイントばかりでとても興味深かった。これから日本への観光客を増やしていくために、気を付けるべき点がたくさんあげられており、非常に勉強になった。例えば、台湾の人にとって日本のラーメンはしょっぱい上に麺が固すぎる、冷たい食べ物や飲み物は苦手なこと、日本の白米や牛乳のおいしさに驚くことなど、意外な情報がたくさんあって参考になった。また、旅行中に地元の人と交流をもつ機会をつくり、関係を築くことがリピーターになってもらうためにもとても大切だと

いうお話も印象的だった。

本研修での訪問先は、立法院や党本部など通常の観光であればなかなか訪れることのできないような場所が多く、台湾の政治の最前線に触れてとても貴重な経験をする事ができた。また、故宮博物院や士林夜市、九份といった台湾の有名な観光地も訪れることができ、台湾の魅力を十分に感じる事ができた。訪問先ではとても温かく迎え入れていただき、台湾の方々が日本との交流をより密なものとし関係を深めていこうとしていることが随所で感じられた。今回、台湾でお世話になった方々と交流を深められたことはとてもうれしく有意義な経験となった。今後ともこのような交流を大切にするとともに、今回の経験から学んだことを活かして、台湾からますますたくさんの方に日本を訪れてもらい、楽しんでもらえるようにするために何ができるのかを考えていきたい。



立法院議場前にて

千葉県総務部秘書課
副主査 茨木浩一郎

私自身、学生時代に中国語を勉強し、台湾へは過去2回ほど観光関係の仕事で訪れていましたが、これまでじっくり台湾の文化・歴史に触れたり、台

湾の人と交流する機会がなかったことから、今回の研修を出発前からとても楽しみにしていました。台湾は非常に親日的で、街中や人々の様子からもそれが感じられます。市内散策でも、博物館のガイドの方が日本人と知ると、とても親切かつ友好的（楽しく）に案内をしてくれたり、MRTの乗車中に、日本語を勉強しているという学生に声をかけられたりするなどしました。観光の基本は、「おもてなし」であると言われてますが、自分が実際に海外を訪れる中で、こうした好印象の積み重ねが観光客のリピーター化につながることをあらためて感じました。

今回の研修では、台湾の大学生や政党、地方議会など様々な人々との交流や観光地の視察等を通じて、台湾への理解をこれまで以上に深めることができました。そして、親日の台湾の人々に、もっと日本を、千葉県を知って、訪れて、楽しんでいただきたいと強く思いました。現在、千葉県では森田健作知事を中心に、台湾との観光や青少年による交流を積極的に進めているところです。一方的な流れではなく、たくさんの台湾の人々が千葉県を訪れる、千葉県からもたくさんの人が台湾を訪れる相互の交流が大事です。私自身、良好な台湾と千葉県、日本の友好関係のさらなる発展に向けて、そのかけ橋となれるよう、これからもがんばっていきたいと思います。



市内散策・地下鉄（MRT）駅にて